

# 市民文化ホール場所は“古井池”の議論 予算執行することには反対の討論

日本共産党市議会議員 三谷しづむ

私たちの町は平成19年7月1日施行で、住民自治基本条例を制定いたしました。その理念は「市民が主役の市民自治の確立を基本理念」としたもので、およそ2年間、50回以上の会議、140時間に及ぶ時間をかけて制定されました。その前文には「市民、議会、市が一体となって情報を共有し、互いに協力しながら協同によるまちづくりに取り組み事」を目標としました。

ところが、今回の文化ホールの場所の選定は異常です。文化ホールの場所については検討委員会でも小委員会でも、言及しないこととしてきましたが、去る3月7日、井原市長は「市民文化ホールの選定場所は、三島・川之江会館の中間地域とし、合併により誕生した四国中央市が、市民が丸となり前進するための象徴的な事業となるように、市民皆さんにご賛同いただける場所を選定する事が最優先の条件」と御答弁なさいました。

私たちは、住民アンケートを行い527名の回答をいただき、それを参考に、基本的には用地を買わずに三島会館の現在地に同規模のホールを建設し、川之江は紙のまち資料館を改造した形で観光の場所として多くの方に来ていただくようにすれば旧川之江の方にも喜んでいただけるのではないかと、私は昨年6月市議会で、青木議員は今年3月市議会で提言もいたしました。いずれも当時の計画で20億円もの用地費は必要ないという立場です。

ところが市当局のみなさんは、昨年7月の広報で早くも現在地では合併特例債が使えない事を理由としました。確かに市の単独の財政では、2つの会館を建てるほどの余裕はありません。しかし合併から7年の間には、三島東中、中曽根保育園、川之江小学校それぞれ現在地での改築事業に合併特例債を活用したではありませんか。今議会には、議案第79号で新市建設計画の変更の議案が提案されているではありませんか。地方自治体の財政は最小の経費で最大の効果を表すことの計画が必要です。

3月11日には、1900年代からの世界の歴史で4番目に大きいといわれる東日本大震災が起り、日本中が国難として我慢もし、被災した人々に支援の手を差し伸べている最中です。国家財政も、900兆円の借金を抱え、今後には税収も落ち、破たんするのではないかと心配される

今日、なぜ古井池を買い17億円もの用地にかかる事業費をかけ開発して文化ホールなのか、これまでの経過から見ても「古井池の開発ありき」ではありませんか。

地方自治体の役割については、地方自治法第1条2項では次のように謳われています。「住民の福祉の増進を図ることを基本とし、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担うものとする」となっています。今後、人口は確実に減少し、少子高齢化は確実に進みます。大型箱物を造れば、どこかで自然をそこね、後々の維持管理や起債の償還などに多額の経費を要し、福祉や暮らし、環境などに影響を与えてまいります。

今回の補正予算の計上、並びに債務負担行為の承認を求める提案は、実に異常です。場所を古井池と確定する、その契約条件が上程された経過もないのに、事前のボーリング調査もしないで、設計委託料に約1億7千万円、測量設計等委託料に2793万円などなど。それらの財源に、来年度の予算を先取りする1億1970万円を債務負担として承認を求めるとなどは、あまりにも拙速であります。

なかでも、設計委託料は、土地購入契約議案を議会上程し、承認後に計上するべきではありませんか。

なによりも、市民文化ホールだけでなく、連動する消防本部三島分署、消防団本部、水道局、発達支援センター、少年育成センターなどなどの大幅改編の総事業費も示されないままに進めてよいと思っていられつしやるのですか。推定でも百億円をはるかに超える大事業になるはずですから。せめて公民館単位で住民説明会を行い、率直に市の方針を示すべきではないでしょうか。

少なくとも私たち議員は、住民の代表です。これらを審議した総務委員会では、これらの計画に対して関係者は「市長が任命した土井健司委員長を代表とする『市民文化ホール建設委員会』の決定が市の方針です」との答弁でした。この言葉が、議会、住民を無視してよいとする事の表れです。これまでの経過や予算計上に大いに問題があると考えます。以上の理由からこれらの予算には反対です。



四国中央市市民文化ホール建設委員会 委員		
備考	氏名	所属等
委員長	土井 健司	香川大学工学部教授 (都市計画・環境政策)
副委員長	徳永 幸夫	四国中央市選挙管理委員会 委員長
委員	阿部 秀信	市内高校文化部指導教諭
〃	石川 進	妻鳥公民館長
〃	石川 久	市内中学校音楽教諭
〃	井上 仁	四国中央テレビ専務取締役
〃	大西 高義	裏千家淡交会三島支部 ほうおう青年部長
〃	合田 志保	四国中央医療福祉総合学院 理学療法学科専任教員
〃	近藤 達之介	四国中央市教育委員会 教育委員
〃	齊藤 正	市外在住建築家
〃	篠原 道能	愛媛県四国中央警察署 副署長
〃	篠原 正博	四国中央商工会議所 専務理事
〃	鈴木 千明	KIDS Brass
〃	鈴木 太	公募(車椅子ユーザー)
〃	高橋 華子	公募(音響・照明等経験)
〃	高畠 澄江	金生川ラバーズ会長
〃	土谷 浩也	ふれあい市民劇団 実行委員長
〃	藤原 達也	(株)サウンドオフィス 代表取締役
〃	古川 静枝	四国中央市文化協会会長
〃	星川 将一	(社)法皇青年会議所 2009年度理事長
〃	三谷 一恵	公募(ピアノ教室主宰)
〃	村上 典夫	愛媛県四国中央土木事務所 企画工事検査専門員
〃	守谷 一郎	妻鳥地区広報委員長
〃	守谷 和久	環境カウンセラー